長時間待機改善に努力を

関ト協海コン部会 総会

【関東】関ト協海上コンテナ部会（菊池秀章部会長）は7月24日、総会を開催。

菊池部会長は、渋滞の激しい一部のコンテナターミナルで「とくに（海コン事業者が）申し合わせたわけではないが、仕事を断り始めた」ことで、荷主から船社、船社からターミナルオペレーターへと伝わり、場所が移り、劣悪な作業の改善が見られたことから「荷主が動けば状況が変わることが証明された」と指摘。経団連などが参加する「貿易手続きに係る官民協議会」で長時間待機問題が認識され始めたことに触れ「この機を捉えて、さらに努力したい」と述べた。

来賓として参加した全ト協海コン部会の藤木幸二部会長は東京都港湾局の対応ぶりについて「われわれは『待機問題』と呼ぶが、都港湾局は『渋滞問題』と言う。認識の違いだが、私は、互いに妥協し合うことは全くできないな、と感じた。都はオリンピックのことで頭がいっぱいのようだ。長野オリンピックで体験したが、道路は半端じゃない渋滞になる。東京がそうならなければと危惧している」と述べた。

今年度は引き続き、東京港での混雑・長時間待機の解消に向けた各種取り組みを行うほか、事故防止の徹底、業界実態の調査を進める。また、オリンピック・パラリンピック開催に向けた東京港の開発計画について、海コン輸送に影響する具体的な問題を検証し、解消に向けた取り組みを推進する。事業活動予算は予備費95万円を含めて255万円。

藤木氏

総会終了後、東京都オリンピック・パラリンピック事務局の松本祐一輸送課長が講演。大会期間中、東京の交通マネジメントは①交通需要抑制・分散・平準化を行う交通需要マネジメント②道路状況に応じた交通の需給関係を高度に運用する交通システムマネジメント③鉄層などの安全で円滑な輸送を実現する公共輸送マネジメントの3つで構成し、渋滞を抑制することを説明した。

（土居忠幸）